

上伊那音楽教育研究会

ハーモニー

第1号

令和7年6月6日

文責 関 瑛子

仰望の日 & 総会

2025年度が始まりました。上伊那音研広報部では、今年度も定期的に「ハーモニー」を発行していきます。ぜひご愛読ください！

5月1日から上伊那合唱団の練習がスタートしました。今年度は、新しい団員さんも増え、とても活気のある練習になりました。そんな中取り組んだ『時代』と『合唱』は歌詞・曲・編曲共に魅力にあふれ、自然と「歌いたい!」という気持ちがこみあげてきて、気がついたら汗だくで声を出していました。日々の忙しい仕事の中、都合をつけて練習に参加するのは大変な面もありますが、仲間と一緒に歌ったり、久しぶりに顔を合わせた先生同士で近況報告をしあったりと、とてもよい時間を過ごすことができました。

仰望の日当日はとても素晴らしい歌声が伊那文化会館の大ホールに響きました。会場で聴いていたみなさんからも「素敵なお声だったね。」「男性も女性も力強い歌声で、カッコ良かった。」等々の感想をお聞きました。全体で一緒に歌うことが出来た「信濃の国」も会場が一体となり心地よい時間だったと感じました。やっぱり、「歌っていいな。」と思う瞬間でした。都市連合音楽会の発表も今から楽しみです。

児童生徒とも即実践できそうな練習法をたくさん取り入れご指導くださった指揮者の清水校長先生、うっとりするような音色で合唱に彩りをそえてくださった伴奏者の小池先生、世話係の高橋先生、小林先生、本当にありがとうございました。上伊那教育会情報「仰望」にも感想が載せられておりましたので、そちらもご覧になっていただければと思います。



午後は、長野市教育委員会指導主事の西山裕一先生を講師にお迎えし、「授業に役立つ歌唱指導」をテーマに講習会を行いました。

簡単にできるアイスブレイクから始まり、『スマイルアゲイン』では鼻濁音や息の使い方を意識した歌唱について教えていただきました。西山先生のメモ書きの入った楽譜は大切な財産になりますね。

続く『大きな古時計』では、最後の歌い方を個人で追究し、ペアで歌い合いました。おなじみの曲で、何回も歌ったことがあるのに、じっくり向き合うといろんな見え方ができて、さらにペアで自分の意図を伝え合うと「そんな解釈が!!!」と新しい発見があってとてもおもしろかったです。学年の実態に応じて、様々な歌唱曲や、器楽曲でも応用できそうだな、と思いました。

最後の『マイバラード』は、体に馴染みすぎているのか？ついつい楽譜を見ずに気持ちよく歌いたくなってしまうますが、指揮者に合わせてマルカートやアクセント、レガートを意識してみんなで歌うと完成度がグンとあがり、ステキなハーモニーが響きました。それぞれのパートをよく聴き合うことも大切だと再認識しました。とても学びの多い研修になりました。

「音楽会や合唱祭は、専科の音楽性を前に出してもいいのではないのでしょうか。」という西山先生のお話がありました。見当はずれの音楽の押しつけにならないよう、日々研修をつみ、自信をもって子どもたちと音楽を楽しめる授業づくりをしていきたいものだと実感しました。1年間、音研のみなさんで高めあっていきましょう！

